

# 兵庫県篠山層群から発見された絶滅両生類化石の研究

自然・環境評価研究部 地球科学研究グループ

池田 忠広



兵庫県の丹波市・丹波篠山市に分布する下部白亜系篠山層群大山下層（約1億1千万年前）からは、恐竜類をはじめとする多くの脊椎動物化石が産出しています。近頃では、世界最古のモンスターサウリア類、*Morohasaurus kamitakiensis*（モロハサウルス・カミタキエンス）が記載・報告されたこと記憶に新しいかと思えます。これらの化石の調査を進める中で、新たにアルバネルペトン類という絶滅両生類の化石が確認されました。

アルバネルペトン類は中生代中期ジュラ紀から新生代前期更新世にかけて生息し、体形は有尾類（イモリなど）に似た小型の絶滅両生類です。化石記録は乏しく十数種が記載されているのみで、東アジアではこれまで一例の報告があるのみです。本化石は同分類としては東アジア二例目の発見となり、歯骨、前頭骨、頭頂骨の特徴から、アルバネルペトン類の未記載種である可能性が高いと考えています。今後研究を進めていることで、謎に包まれたアルバネルペトン類の系統進化や生態などの議論に寄与できると考えています。



Johnny Yankovich / CC BY-SA 4.0

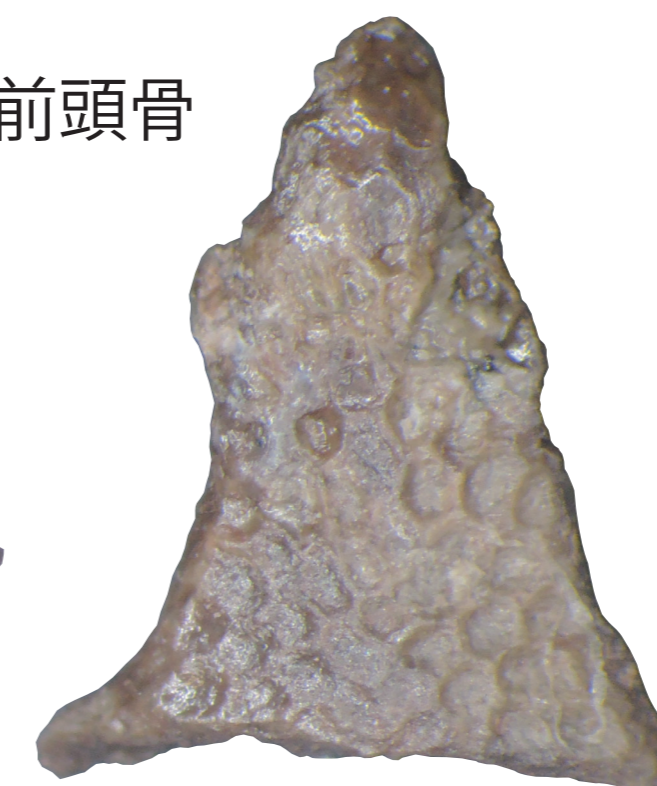
アルバネルペトン類の復元画

右下顎



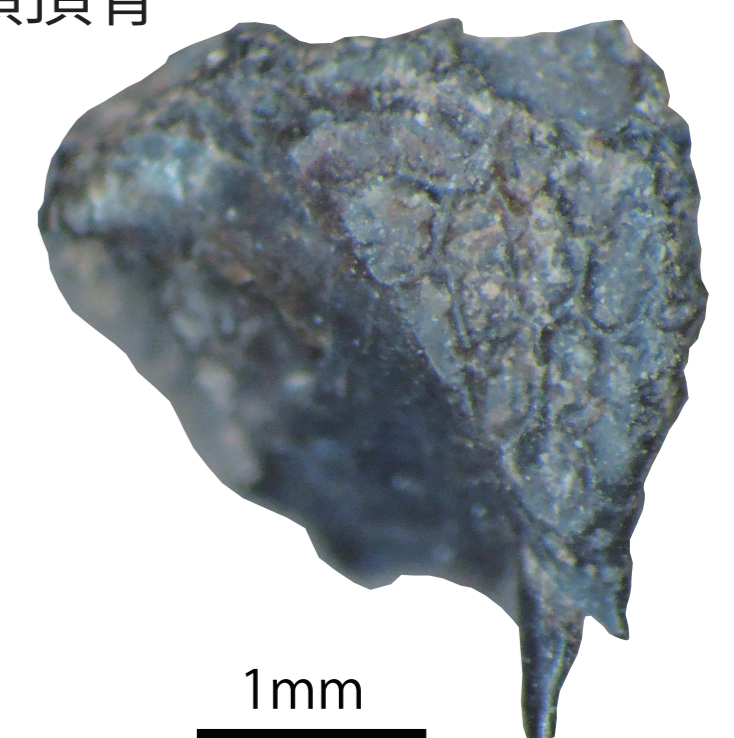
1mm

前頭骨



1mm

左頭頂骨



1mm

篠山層群から産出したアルバネルペトン類の化石